

障がいのある人と人権

全ての人にとって住みよい社会にするために

2024.3 長野県教育委員会

1 ねらい

私たち一人ひとりが、障がいのある人に寄り添った支援の在り方を理解し、障がいのある人もない人も全ての人にとって住みよい社会を実現するためには何が必要なのかを考える。

2 準備するもの

資料 ワークシート 筆記用具

3 解説

「障害者差別解消法」は、行政機関と民間事業者に対し、障がいのある人への不当な差別的取扱いを禁止するとともに、合理的配慮の提供を求めています。私たち一人ひとりに対しても、障がいを理由とする差別の解消に向けた、それぞれの立場における自発的な取組を促しています。

それでは、具体的に何をすればよいのでしょうか。大切なことは、障がいのある人もない人も分け隔てられることなく共生する社会を実現するためには何が必要か、一人ひとりが考え、理解を深めていくことです。

4 学習活動の進め方（展開例） 【時間 約 60 分】

学習活動の流れ（活動・内容）	ファシリテーターの声掛け・留意事項
1 「うれしい」と感じるような人と人との関わりを感じた体験について話す。【時間：5分】 (1) 順番に自己紹介を行う。「名前」と「最近人にしてもらって、うれしかったこと」について話をします。 ・聞いている人たちは、拍手をしたり、うなずいたりしながら聞きます。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">あらかじめ、3～6人のグループ分けをしておくとい。</div> (1) グループ全員で簡単な自己紹介と、気持ちをほぐすために少し話をしましょう。自己紹介は、お名前と「最近人にしてもらって、うれしかったこと」をお話してください。聞いている方は、共感することがあったら、拍手をしたりうなずいたりしながら、聞くようにするといいかなと思います。
2 イラストの中に描かれている人物が思っていることを考える。【時間：15分】	

<p>(1) イラスト A・B を見て、描かれている人物がどのような状況にあるのかを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イラスト A: 信号が赤になりそうなので急いで横断しようとしていると、白杖を持った人が横断していました。 ・イラスト B: エレベーターに乗っていると、エレベーターの前に車いすに乗っている方がいました。 <p>(2) イラスト A・B の中で、①～④の人物が思っていることについて考え、ワークシートに書きます。</p> <p>(3) グループ内で、ワークシートに書いたことを伝え合います。</p>	<p>(1) (ワークシートを配り) ここに2つの場面が描いてあります。(資料1を提示する)。</p> <p>A は「信号が赤になりそうなので急いで横断しようとしていると、白杖を持った人が横断していた」ところです。B は、「エレベーターに乗っていると、エレベーターの前に車いすに乗っている方がいた」ところです。</p> <p>※白杖：視覚障がい者の歩行を助けるための杖</p> <p>(2) A・B 中の①～④の人たちは、どのようなことを思っているでしょうか。想像しながら、ワークシートの「思っていること」に書きましょう。</p> <p>(3) ワークシートに書いたことを、グループ内でそれぞれ伝えてください。発表する人の考え方を尊重しながら、聞き合しましょう。</p>
<p>3 自分が①や③の立場なら、どのようなことができそうか考える。【時間：20分】</p> <p>(1) イラスト A・B の障がいのある人に対して、①や③の立場から、どのようなことができそうか考え、ワークシートに書きます。</p> <p>(2) グループ内でワークシートに書いたことをそれぞれ伝え合い、意見を共有します。</p>	<p>(1) イラスト A・B の障がいのある人に対して、自分ならどのようなことができそうでしょうか。先ほどの皆さんの考えも参考にしながら、ワークシートの矢印の下の欄の中に書きましょう。</p> <p>(2) ワークシートに書いたことを、グループ内でそれぞれ伝えてください。</p>
<p>4 今日の活動を振り返り、考えたことを共有する。 【時間：20分】</p> <p>(1) 「心を添わせる」～社会人権教育研修会 <small>ほりこしよしはる</small> 堀越喜晴さんの講演から～」を読みます。</p>	<p>(1) ここで、「心を添わせる」～社会人権教育研修会 <small>ほりこしよしはる</small> 堀越喜晴さんの講演から～」を紹介します。</p>

<p>(2) 学習を通して考えたことや、感じたことをワークシートに書きます。</p> <p>(3) ワークシートに書いたことを伝え合います。</p>	<p>(2) 今日の活動を通して、考えたことや気づいたこと、感じたことは何でしょうか。ワークシートに記入しましょう。</p> <p>(3) ワークシートに書いたことを伝え合しましょう。</p> <p>今回の活動を通して、コミュニケーションをとることで、様々な考え方に会うことができたり、相手の立場に寄り添って考えたりすることの大切さに気づけた方が多いように思います。</p> <p>障がいのある方もそうでない方も、全ての人が住みやすい社会を目指すために、今日考えたこと、気づいたことを、これからの生活に生かせるといいですね。</p>
--	--

ワークシート 全ての人にとって住みよい社会にするために

1 イラストのような場面で、①～④の人たちは、どのようなことを思っているでしょうか。また、イラストA・Bの障がいのある人に対して、自分ならどのようなことができそうですか。

イラストA



①の方が思っていること

②の方が思っていること

自分が①の立場なら、どのようなことができそうですか

イラストB



③の方が思っていること

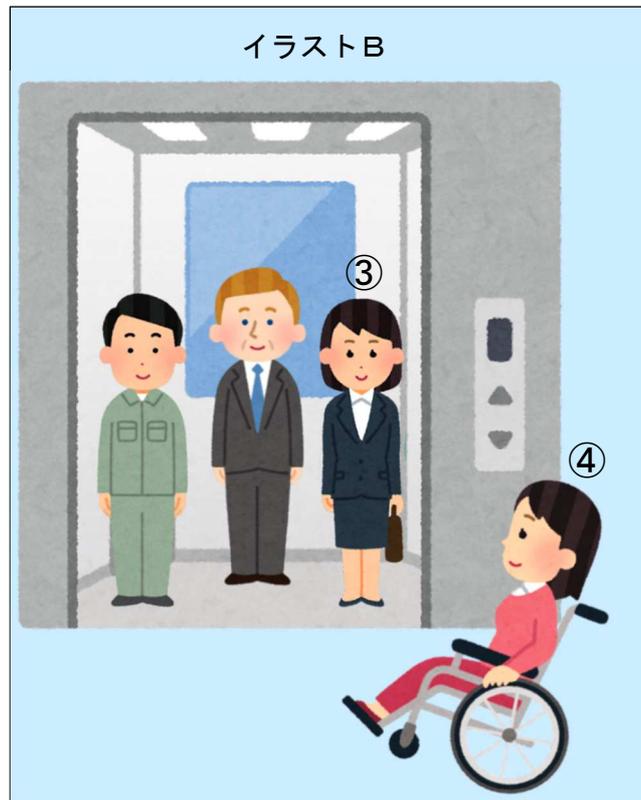
④の方が思っていること

自分が③の立場なら、どのようなことができそうですか

2 ふりかえり この活動でどんなことを考え、気づき、感じましたか。

資料 1

登場人物の気持ちを考えましょう



資料2 「心を添わせる」～社会人権教育研修会 堀越喜晴さんの講演から～

社会人権教育研修会では、言語学、キリスト教文学者の堀越喜晴さんから「人権は現場で起きている～『人権教育』と、『人権ある教育』～」と題して、視覚に障がいがある中で経験してきた様々な出来事から感じたこと、私たちに立ち止まって考えてほしいことを分かりやすくお話ししていただきました。

1 障がいのある方は困っている人？

堀越さんはこれまで多くの学校から依頼を受け、講演をされてきました。その時に感じたことを次のように述べられています。

学校では人権週間があります。そういった時によく障がい者が招かれて、話をします。なぜ私が招かれるのでしょうか。障がいの当事者だからです。ある学校の先生からは、「障がいをもって日々頑張っている人の話を聞かせると、生徒たちは『こんなにわがままを言っているのは申し訳ない』という気持ちになり、生徒が優しい気持ちになる。そして、いじめがなくなるから、やってください」と言われました。先生方は、子どもたちに「(障がいのある方に)手助けしてあげましょうね」と教えていませんか？



講師の堀越喜晴さん



「障がいのある方は支援しなければいけない」と、「障がいのある方は困っている人」と私たちが決めつけて接しているのではないかと、自分自身が立ち止まって考える言葉になりました。そして、手助けが必要な存在で、やさしく慎重に接するものだと無意識のうちに考えていなかったか問われた気持ちになりました。私たちは、障がいのある方にどこにどのような障がいがあり、何を求めているのかを聞こうとしてきたのでしょうか。障がいのある方を一括りにするのではなく、目の前の方を一人の人間として出会うことの大切さを感じます。また、堀越さんは次のようにも述べられています。

普段から視覚に頼っていないので、何も見えなくても支障はありません。

目が見えないと生活に支障があるだろうと、独りよがりな捉え方で障がいのある方を見ていた自分に気付かされた言葉です。

2 キーワードは、「心を添わせる」

堀越さんは、障がいのある方の人権を守る意識として大切な視点を次のように述べられました。

「心を添わせる」が今の私のキーワード。私たちがしていただきたいことは支えてもらうことであって、させてもらうことではありません。障がい者に「心を添わせる」とは、障がい者の話をしっかりと聞いて、支援を望んでいるのか、必要な場合はどんな支援を望んでいるかを把握するためにコミュニケーションをとることだと思います。このようなコミュニケーションがないと一方的な支援になり、その関係に人権はありません。「人権」と言ったら「コミュニケーションをとろうとしているか」と言えます。

障がいのある方は一人ひとり希望する支援が違います。その場での支援を必要としない方もいます。適切なコミュニケーションをとるには障がいのある方をよく見ること、話をよく聞くことが必要だと思います。その姿勢は、障がいのある方の人権を大切にすることにもつながります。互いにコミュニケーションをとりながら、相手を理解し他者と共に生きていく気持ちが大切ではないでしょうか。



私は「障がいのある方は常に困っている」という自分の中にあった思い込みを反省しました。「May I help you?」の精神が大切だと堀越さんは言います。障がいのある方の人権を保障するという事は、福祉施策の対象としての障がい者から、同僚・仲間としての障がい者へ意識が変化し、心を通わせ合う関係を築いていくことではないでしょうか。同じ人間としてコミュニケーションをとることは、すべての人の人権を認め合い、一層幸福な社会を実現することにつながると思います。

出典：人権つうしん第61号 令和4年（2022年）
長野県教育委員会事務局心の支援課